

【今日の説教から】

いよいよ再来週にペンテコステ(聖霊降臨日)が近づきました。今日はマタイ福音書から復活後の主に出会いましょう。

稲妻のように光り輝き、衣は雪のように真っ白な御使いが現れると、主の墓を守っていた兵たちは恐ろしさのあまり震え上がって死人のようになりました。主は恐るべきお力で、私たちの目に見えるどんなに大きな障害でも簡単に取り除くことが出来、そして私たちに「平安あれ、恐れるな」と語られます。恐れを知らない祭司長たちは長老と集まって、偽装工作を画策し、兵卒たちにたくさんの金を与えて弟子たちが主の遺体を盗んでいったとの証言をさせましたが、それがここに明るみになっているということは、人の愚かな偽装は必ず明るみになることを物語っています。

祭司長、長老、兵卒が神様のすさまじい力による出来事を封じ込めようと偽装を巡らせている中、肝心の主の弟子たちの中にはなにお信じていない者がいました。イエス様は弟子たちに言われました。「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。」だから「行って、弟子とし、洗礼を受け、教えよ、世の終わりまでいつもあなたと共にいる」と語られます。主は全ての権威をお持ちの方です。私たちが誰の下に就き、どのような命令を守るべきかは明白です。主はいつまでもともにおられます。恐れずに私達は出て行き、主の弟子となる方々と出会わせて頂きたいと願います。

私たちは再来週の日曜日にペンテコステを迎えますが、ここではペンテコステについてお話をしたいと思います。大麦の初穂のお祭り(過越の祭の後にくる最初の安息日の翌日・日曜日)から 50 日目にあたり、ユダヤ教の三大祝日の一つが五旬節(7 週)の祭りです。(これは主の復活から 50 日目にあたる日です)。それは大麦の収穫が終わり、小麦の収穫が始まることで、モーセがシナイ山で神様から十戒を頂いた日とされています。イスラエルの男子は年に 3 度主の前に出るとされていますが、その一つがこの五旬節のお祭りでした。

使徒 1 章 3 節にはこうあります。

「イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られた。」

主は実に復活とペンテコステの間の 50 日(正確には 49 日)のうちの 40 日を、弟子たちの前にお姿を現して共に過ごされたということが分かります。

今日はマタイによる福音書から復活のイエス様にお会いしたいと願います。

28:1 さて、安息日が終って、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリヤとほかのマリヤとが、墓を見にきた。

28:2 すると、大きな地震が起った。それは主の使が天から下って、そこにきて石をわきへころがし、その上にすわったからである。

28:3 その姿はいなずまのように輝き、その衣は雪のように真白であった。

28:4 見張りをしていた人たちは、恐ろしさの余り震えあがって、死人のようになった。

大きな地震が起りました。それは主の使いが天から下って、そこへ来て石を転がして、その上に座ったことによって起ったことでした。その姿は稲妻のように輝き、その衣は雪のように真っ白でした。見張りをしていた屈強な兵たちは、恐ろしさのあまり震え上がり、死人のように身動きもできませんでした。

神様は、人のどんな企てもいとたやすく打ち破られます。しかしここに思いますのは、祭司長たちの準備万端な様子です。

マタイ 27 章の最後のところにこういう会話が収録されています。

27:62 あくる日は準備の日の翌日であったが、その日に、祭司長、パリサイ人たちは、ピラトのもとに集まって言った、

27:63 「長官、あの偽り者がまだ生きていたとき、『三日の後に自分はよみがえる』と言ったのを、思い出しました。

27:64 ですから、三日目まで墓の番をするように、さしずをして下さい。そうしないと、弟子たちがきて彼を盗み出し、『イエスは死人の中から、よみがえった』と、民衆に言いふらすかも知れません。そうなると、みんなが前よりも、もっとひどくだまされることになりましょう」。

27:65 ピラトは彼らに言った、「番人がいるから、行ってできる限り、番をさせるがよい」。

27:66 そこで、彼らは行って石に封印をし、番人を置いて墓の番をさせた。

主の弟子たちは女性たちが空の墓を見たと言って帰ってきても、イエス様のお言葉をすっかり忘れてそれをたわごとだと言って捨てましたが、祭司長、パリサイ人たちは総督ピラトに願ってローマの屈強な兵を駆り立てて、対策を練っていたというのです。信すべき主の弟子たちはどこ吹く風で、祭司長たちは厳戒態勢で臨んだ出来事、そこには指導者たちの威信をかけた、精鋭たちの警護があったはずでしたのに、それはやすやすと打ち破られました。

28:5 この御使は女たちにむかって言った、「恐れることはない。あなたがたが十字架におかかりになったイエスを捜していることは、わたしにわかっているが、

28:6 もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。さあ、イエスが納められていた場所をごらん下さい。

28:7 そして、急いで行って、弟子たちにこう伝えなさい、『イエスは死人の中からよみが

えられた。見よ、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。そこでお会いできるであろう』。
あなたがたに、これだけ言っておく」。

28:8 そこで女たちは恐れながらも大喜びで、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った。

28:9 すると、イエスは彼らに出会って、「平安あれ」と言われたので、彼らは近寄りイエスのみ足をいだいて拝した。

28:10 そのとき、イエスは彼らに言われた、「恐れることはない。行って兄弟たちに、ガリラヤに行け、そこでわたしに会えるであろう、と告げなさい」。

神様に抗うことを画策する人たちにとっては驚天動地の身震えする出来事であったに違いないのですが、主を信じる人たちに向けられた御使いの言葉は「恐れることはない」とのものでした。そしてイエス様がお現われになり、「平安あれ」と言われたという出来事は他の福音書に読んだ通りです。ただここではガリラヤに行けと語られるところが新しく思われます。ルカ福音書では高いところからの力に覆われるまでは都に留まっていなさいとのお言葉がありました。しかしこのガリラヤに行きなさいとは、今日の主の大宣教命令を聞くために登ったガリラヤの山を意味するものと思われますから、矛盾するわけではなさそうです。

28:11 女たちが行っている間に、番人のうちのある人々が都に帰って、いっさいの出来事を祭司長たちに話した。

28:12 祭司長たちは長老たちと集まって協議をこらし、兵卒たちにたくさんの金を与えて言った、

28:13 「『弟子たちが夜中にきて、われわれの寝ている間に彼を盗んだ』と言え。

28:14 万一このことが総督の耳にはいっても、われわれが総督に説いて、あなたがたに迷惑が掛からないようにしよう」。

28:15 そこで、彼らは金を受け取って、教えられたとおりにした。そしてこの話は、今日に至るまでユダヤ人の間にひろまっている。

警護に失敗した兵士たちを処罰することなく、たくさんのお金を渡して口封じをしているということこそが彼らの矛盾を物語っています。このような密室の会話が外に漏れてくるということも、人の隠ぺい工作が、たとえどんなに完全に行われたように見えたとしても結局は功をなさないということを示しています。

27:63 「長官、あの偽り者がまだ生きていたとき、『三日の後に自分はよみがえる』と言っ

たのを、思い出しました。

27:64 ですから、三日目まで墓の番をするように、さしずをして下さい。そうしないと、弟子たちがきて彼を盗み出し、『イエスは死人の中から、よみがえった』と、民衆に言いふらすかも知れません。そうすると、みんなが前よりも、もっとひどくだまされることになりましょう」。

弟子たちが来て主の遺体を盗んで主の復活を立証するなどということは、弟子たちにとって全く不要の働きでした。それ以前に、主が『三日の後に自分はよみがえる』と言っておられたから、私たちが墓から主の遺体を抜き出してそのことを世に知らしめようとする弟子たちというのは、誰一人いませんでした。

信仰の世界というのは、この聖書の信仰の世界は、私たちが自分の知恵や努力で神様の正しさを立証しようなどという企ては一切必要なく、理解が浅く、主のお言葉の深さや真意を量りそこなう愚かな人間の人知を超えたところに働いて、神様がお約束なさったことは一点一画とも成し遂げられずに終わることがないという、そういう神様のご真実がただただ知らされる、それが私たちを包み、守り導くこの聖書を信じる世界を創造された神様を信じる信仰であることを知らされます。

一方で、祭司長や律法学者たちは、いつもいつも自分の手で権威を作り上げたり、自分の力を誇示したり、人を屈服させたり、尊敬や注目を集めたりすることに汲々としていた人たちであったのではないのでしょうか。

ヨハネ 15:15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

28:16 さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが彼らに行くように命じられた山に登った。

あの、主と共に寝起きを共にした懐かしいガリラヤの地で、おそらく朝早くから祈りをささげた山にて弟子たちはまた主と再会しました。

ルカ 6:12 このころ、イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。

マタイ 5:1 イエスはこの群衆を見て、山に登り、座につかれると、弟子たちがみもとに近寄

ってきた。

マタイ 14:23 そして群衆を解散させてから、祈るためひそかに山へ登られた。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。

マルコ 14:26 彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った。(ゲッセマネの祈り)

28:17 そして、イエスに会って拝した。しかし、疑う者もいた。

しかしこの期に及んでも、未だ主と信じられない者もいました。

28:18 イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。

私たちの主イエス様は、父なる神様から一切の権威を授けられたお方です。

この天においても地においても、すべての権威を授けられたお方は、王の王、主の主であり、他のどの御使いとも被造物とも比べられるべき方ではないということを意味します。

父なる神様は、もちろん天においても地においても一切の権威をお持ちの万物の創造者ですが、どうして神様は御子という方、初めからおられ、神と共におられ、この方によって創られないものはないというお方を人と同じ姿で生まれさせ、十字架にかけ、死に葬られ、死より復活させ、再びすべての権威をお与えになられるのでしょうか。

それは私たち人間に対する神様のご計画でした。神様は御子を私たちと全く同じ人として私たちのもとに遣わし、人の身代わりとされました。イエス様にはそれでもなお完全な神として、すべての権能を保持していらっしゃったにもかかわらず、全く人としてあるためにそれを自らの手で行わず、遣わされて神様の御心に委ねておられました。今イエス様は受肉される前にお持ちでいらした満ち満ちた完全な権威を再び授けられ、そうして私たちをも遣わしていただくのです。

28:19 それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

28:20 あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

それ故に、私たちは出ていく必要があります。そしてすべての国民を主の弟子とするのです。どんな言葉や文化や宗教というバックグラウンドを持っているということに関係なく、天と地の一切の権威をもっているお方を指し示すのです。そして彼らを主の弟子として、洗礼を授け、主が命じてくださった一切のことを守るように命じなさいと主は語られました。この権威者であられる主イエス様のお言いつけに従って生きることが私たちにとって最高最善の幸福であるからです。それは私たちの生きる道であり、命です。

主は世の終わりまで、いつも私たちと共におられます。その大能の権威で私たちを励まし、守り、立ち上がらせてくださいます。私たちは、自分の力でこの方を持ち上げるのではなくて、このお方のお力でもち上げていただき、日々力と知恵とすべてを頂いて何事か良きことを、神様の業をなすために召されているのですから、恐れずに信じて進みたいと願うのです。

ヨハネ 14:12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

ヨハネ 20:21 イエスはまた彼らに言われた、「安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす」。

20:22 そう言って、彼らに息を吹きかけて仰せになった、「聖霊を受けよ。

20:23 あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう」。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。私たちの神様のお力強さを私たちは聖書からとことん知らされます。それに比べて人のむなしい偽装工作はどんなにか浅ましいものなののでしょうか。主の御使いの力強さを間近に見た兵士たちは、恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになりました。その後の祭司長たちの工作に一度は加担し

ましたが、神様の力強さに抗い続けることはできませんでした。私たちの主イエス様は天と地の一切の権能をお持ちの方。このお方の正しいご命令に従うことは私たちから恐れを取り除き、平安を与えます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン